

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

今月の話題

病害虫判別アプリ

日本に試験導入

BASF 年内、大豆から

ドイツに本社を置く総合化学メーカーのBASFは1月24日、欧州を中心に展開している農作物の病害虫を判別するアプリ「Xarvio（ザルビオ）」を、2019年中に日本で試験導入を始めること発表しました。病害の疑いがある作物や害虫の写真を撮ると種類を特定し、適した農薬を示します。対象作物は、大豆を皮切りとし、徐々に他の品目にも広がっていきます。

東京都港区で開いた、スマート農業に関するパネル



デジタル農業の重要性を話す
BASFのマルクス氏
(1月24日、東京都港区で)

デイスカッションの中で発表しました。試験導入するのは「Xarvioスカウティング」と「Xarvioフィールドマネージャー」の2種類です。

「スカウティング」はスマートフォン向けのアプリ。写真を基に、作物に病害が出ていないかや、雑草や害虫の種類を判別してくれます。近隣のアプリ利用者

のデータを蓄積して、病害の発生予測もできます。

「フィールドマネージャー」は、より広範囲の病害発生状況の確認に使えるアプリで、衛星画像から、病害の発生箇所や防除適期を判断し、必要な農薬量も示してくれます。

同社は、データを基にしたデジタル農業に力を入れ、世界展開を目指しています。アグロソリューション事業部を統括するマルクス・ヘルド氏は「デジタル農業は、欧州や北米、南米の大規模農家で普及してきた。世界の食料生産を高めるため、日本などアジアの小規模農家にも普及さ

せていく」と話しました。

同社は今後、日本の農家と協力して試験を進め、国内でのアプリの有効性や課題を整理。アプリ展開の方向性を探っていきます。

今が旬
この言葉

改正農薬
取締法

2018年12月に改正農薬取締法が施行されました。①農薬の再評価制度の創設②農薬登録の審査の見直し—が大きな変更点です。①は15年ごとに最新の科学基準で安全性を確認する仕組みで、国際的な基準に合わせる形で新たに導入しました。②にはジェネリック（特許切れ）農薬の申請の簡素化が含まれています。良質な農薬を安価に流通させるのが狙いです。

同改正法により、農作業の安全性の向上や生産コストの引き下げ、農産物の輸出促進へ期待が高まります。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介しています。

骨の健康維持につながる、茶粉末の製造方法を確立

茶葉成分のビタミンK、エピガロカテキンゲレートに着目

高齢化社会が進むなか、骨粗しょう症の予防に関心が集まっていますが、骨の健康維持には毎日の食生活にヒントがあるかもしれません。

三重県農業研究所では「茶」に多く含まれる成分に注目。骨の健康維持に有効とされるビタミンKとエピガロカテキンゲレート(EGCG)をさらに多く含む茶の栽培・製造方法を確立しました。この茶粉末を用いたマウス実験(三重大学生物資源学研究所)では、餌に0.0

3%添加すると骨密度の低下を抑制できることが分かっています。

両成分を多く含む茶葉のキーワードは「二番茶」の「2段階被覆」「白茎の除去」です。茶期別では、二番茶が一番茶・秋番茶よりも両成分ともに多く含まれています。三重県では茶の品質を高めるために収穫期前に被覆する「かぶせ茶」の栽培が盛んです。栽培時に2段階の被覆を行うことでビタミンKの濃度がより高まります。また両成分は、茎より

葉に多く含まれることから、色彩選別によつて白茎を除去することで含有量をさらに高めることができます。

ビタミンKは水に溶けないため、茶粉末として摂取することで茶葉中のビタミンKを有効利用できます。粉末茶の製造を想定し、粒度別のビタミンK消化吸収率を調べたところ、茶粉末の粒度が細かいほど吸収率が高まりました。とくに、1000マイクロメートル(μm)以下の粒度では生野菜の3倍の消化

JAみえきた 農高生インターン業界の最前線体験

JAみえきたは、1月下旬から2月上旬までの4日間、農業を学ぶインターン生として県立四日市農芸高校生産科学科生産技術コースの2年生4人を受け入れた。受け入れは昨年に続き2回目。4人はハクサイ、キャベツなど冬野菜の収穫や箱詰め作業、農機の操縦実習など農業の最前線に触れて学んだ。同校の天野徳人さん(16)は「テレビや本でしか見たことがないような貴重な体験ができた。農業への興味がより深まった」と話した。(2019/2/8 ワイド2東海)

JA津安芸 イチゴ おいしさ発信 菓子店と連携

JA津安芸は、津市内の和洋菓子店9店舗と連携し、同JA管内で栽培されたイチゴを使ったタルトや和菓子などのスイーツを1月中旬に期間限定で販売した。JAが和洋菓子店と連携するのは今回が初めて。管内で栽培されたイチゴのおいしさを広めることを目的に企画した。管内産のイチゴをより広く発信し消費拡大につなげるため、津市物産振興会スイーツ部会へ本企画を提案。9店舗が賛同し、今回のイベントが実現した。「かおり野」と「章姫」を使った商品を各店舗が考案し、それぞれの店舗で期間限定販売した。(2019/1/26 ワイド1東海)

JA三重中央 椅子作り体験 親子ら楽しむ

JA三重中央大井支店は木工教室を開き、地域の子どもと家族約40人が参加した。地域組合員らで構成する「支店ふれあい委員会」が企画。住民らに交流の場を提供したいとの思いから、委員自ら手を挙げた。昨年8月からJAとの打ち合わせを重ね、開催に至った。参加者は椅子作りを体験。地元工務店から講師を招き、木材の向きや組み立て方、くぎ打ちから塗装まで指導を受けた。参加した子どもの一人は「くぎを真っすぐ打つのが難しかった。色塗りがうまくできて満足」と出来栄を喜んだ。(2019/2/5 ワイド2東海)

ビタミンK・EGCG含有量の高い茶葉の製造方法

- ①茶期：二番茶期
- ②被覆：二段階被覆
85%遮光6日間の後、
98%遮光9日間
- ③色彩選別：白茎を除去

吸収率が期待できることが分かりました。これらの成果により、県内産茶の新たな需要の創出ならびに、骨の健康維持に向けて期待が高まります。

※かぶせ茶慣行栽培用85%遮光資材で6日間被覆した後、資材を2枚重ねにして遮光率98%で9日間被覆する方法

お問い合わせ先 三重県農業研究所 フード・循環研究課 ☎0598-42-6361
茶葉研究課 ☎0595-82-3125

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します！

◆トラクターなどの農業用機械の購入資金
◆栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
◆その他農業経営に必要な資金

実質保証料

0円

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を5年間軽減いたします。

JAバンク利子補給制度(3年固定)
当JA金利引き下げ(2年固定)措置の対象となります。
利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

(お借入金利) 変動金利 年1%	-	(JAバンク利子補給・金利引き下げ) 年0.8%	=	実質 年0.2%
---------------------	---	-----------------------------	---	----------

5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成31年2月現在

※JAバンク利子補給・当JA金利引き下げ後のご負担金利は0.2%を下回らないように調整されます。
※イメージは実際とは異なる場合がございます。詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。
※JAバンク保証料助成により、実質保証料が0円となります。